



学薬のひろば



Vol. 025

10月 9～10日、広島国際会議場及び広島県立総合体育館において第38回日本薬剤師会学術大会が催され、本会から山口一丸先生が県学薬が昨年より勧めている“薬剤師が話す「くすりのお話」”について口頭発表を行いました。CD-ROM及び基本となる台本を用意し、小学校高学年・中学生を対象としているが一般向けとしても



対応しうるものであること、また、子供たちに“くすりの正しい使い方”を教えることとセルフエスティーム（健全な自尊心）に着目することで“自分の体を大切にすること”“命の大切さ”を教え、法規制や薬物への恐さからだけでなく自分自身が本当に大切だから“絶対に



ダメ”と言えるようになってほしいこと、さらに自分を大事にできる人は隣にいる人のことも大事にできる人だということを伝えてゆくことが薬物乱用防止教育に携わる薬剤師の使命であり目的であると結ばれました。

”くすりの正しい使い方“については今後早い時期に指導要領等に盛り込まれる可能性がありますので先生方にも是非資料を活用して学校等での指導に活用していただきたいと考えます。

この夏に実施した県内一斉調査の集計ができましたので以下に紹介させていただきます。各先生方にはご協力ありがとうございました。

平成17年度 県内一斉調査

- 学校環境衛生活動に関する実態調査 -

愛知県薬剤師会学校薬剤師部会
愛知県学校薬剤師会

はじめに

学校環境衛生に関して、日々の活動実態を把握し、なにか問題点があれば速やかに改善できるよう把握しておく必要がある。特に今回は昨年度の学校での講演について重点的に調査をした。さらに今年度からはインターネットによる記入・提出も試みた。

調査結果

回答者数

名古屋	285人	82.5 %
尾張	347人	91.1 %
三河	241人	86.0 %
愛知県	873人	86.9 %

回答の提出方法

	ネットから	回答用紙
名古屋	9.2 %	90.8 %
尾張	9.2 %	90.8 %
三河	4.8 %	95.2 %

2、年間勤務回数（在校時間に関係なく）

	0回	1回～10回	11回～20回	21回以上	無回答
名古屋	0.0 %	7.4 %	76.5 %	13.3 %	2.8 %
尾張	0.0 %	65.4 %	28.8 %	3.2 %	2.6 %
三河	0.0 %	68.5 %	24.1 %	2.1 %	5.3 %

3、執務記録簿や報告書の記入

	学校薬剤師	学校側	その他	無回答
名古屋	47.0 %	46.7 %	4.6 %	1.7 %
尾張	55.6 %	40.3 %	2.9 %	1.2 %
三河	47.3 %	40.7 %	9.5 %	2.5 %

4、学校保健委員会への参加

	発表	出席	欠席	開催されたが連絡がなかった	未開催	無回答
名古屋	29.1 %	61.8 %	6.3 %	1.1 %	1.7 %	0.0 %
尾張	4.9 %	36.6 %	32.6 %	19.0 %	5.5 %	1.4 %
三河	8.3 %	32.8 %	29.5 %	17.8 %	8.7 %	2.9 %

5、県学校薬剤師講習会（2月）

	出席	欠席	無回答
名古屋	41.4 %	58.6 %	0.0 %
尾張	34.6 %	64.0 %	1.4 %
三河	46.1 %	53.5 %	0.4 %

6、学校から講演などの依頼は

	依頼があり、話した	依頼がなかった	依頼があったが断った	無回答
名古屋	14.7 %	83.2 %	2.1 %	0.0 %
尾張	11.2 %	86.7 %	1.7 %	0.4 %
三河	15.8 %	80.9 %	2.5 %	0.8 %

7、設問6で（ハ）を選んだ理由（複数可）

	何を話してよいか分からなかった	適当な資料がなかった	人前で話すのが不得意である	十分な時間が取れなかった	その他
名古屋	7.7 %	30.8 %	15.4 %	23.1 %	23.0 %
尾張	0.0 %	0.0 %	28.6 %	71.4 %	0.0 %
三河	14.3 %	14.3 %	14.3 %	35.7 %	21.4 %

8、講演などの対象者は（複数可）

	児童・生徒	保護者	教職員	その他
名古屋	38.9 %	34.7 %	26.4 %	0.0 %
尾張	44.6 %	27.0 %	24.3 %	4.1 %
三河	35.5 %	32.3 %	29.0 %	3.2 %

9、使った教材について（複数可）

	各薬剤師会 作成の資料	自己 オリジナル	行政・警察 などのパン フレット	既存の本、 雑誌、VTR	その他
名古屋	27.0 %	49.2 %	11.1 %	6.3 %	6.4 %
尾張	19.6 %	52.9 %	3.9 %	13.7 %	9.9 %
三河	15.8 %	54.4 %	3.5 %	14.0 %	12.3 %

11、薬剤師が話す「くすりのお話」のCD-ROMについて

	手元にある	手元にない	無回答
名古屋	75.4 %	22.5 %	2.1 %
尾張	68.6 %	25.4 %	6.0 %
三河	74.7 %	22.0 %	3.3 %

12、薬剤師が話す「くすりのお話」の内容について

	すでに 使った	今後 使う予定	内容の一部 を使う予定	これでは 使えない	使いたく ない	無回答
名古屋	4.2 %	69.8 %	20.9 %	0.9 %	0.9 %	3.3 %
尾張	2.1 %	69.3 %	21.8 %	0.4 %	0.4 %	6.0 %
三河	3.9 %	57.2 %	28.9 %	1.7 %	0.6 %	7.7 %

14、ダニアレゲンの検査時期

	5月	6月	7月	8月	9月	その他	未実施	無回答
名古屋	0.7 %	1.4 %	52.3 %	9.1 %	29.5 %	2.5 %	2.1 %	2.4 %
尾張	1.7 %	4.9 %	14.7 %	18.4 %	8.4 %	1.4 %	46.7 %	3.8 %
三河	1.2 %	3.3 %	8.3 %	10.4 %	4.6 %	1.2 %	66.8 %	4.2 %

15、ダニアレゲンの検査場所

	保健室	教室	特別教室	その他	無回答
名古屋	96.3 %	1.5 %	1.5 %	0.6 %	0.0 %
尾張	82.0 %	2.3 %	11.0 %	3.5 %	1.2 %
三河	80.0 %	7.1 %	11.4 %	0.0 %	1.5 %

16、ダニアレゲンの検査箇所

	布団	ベッドマット	カーペット	その他	無回答
名古屋	50.0 %	40.8 %	7.4 %	1.8 %	0.0 %
尾張	52.3 %	28.5 %	15.7 %	2.3 %	1.2 %
三河	44.3 %	30.0 %	15.7 %	7.1 %	2.9 %

17、二酸化窒素（冬季空気検査）

	測定した	測定しな かった	暖房器具が ないので 未実施	無回答
名古屋	89.5 %	9.8 %	0.0 %	0.7 %
尾張	31.7 %	58.5 %	7.2 %	2.6 %
三河	27.0 %	58.5 %	13.3 %	1.2 %

18、騒音検査で使用した騒音計は

	等価騒音計	従来の 騒音計	未実施	無回答
名古屋	81.1 %	17.9 %	1.0 %	0.0 %
尾張	11.0 %	20.5 %	62.8 %	5.7 %
三河	5.4 %	7.5 %	83.8 %	3.3 %

考察

1、学校薬剤師の勤務実態と活動状況について

執務記録簿の記入は、昨年度に比べると学校薬剤師自身が記録している割合が大幅に上昇しているが約50%ほどであった。

学校保健委員会への参加率はあまり高くはなかった。学校薬剤師の職務に学校保健委員会への参画と指導助言ということがあることを再確認していただき、より積極的に参加するよう期待したい。

2、学校での講演について

まだまだ学校からの依頼は少ないが、積極的に学校に赴いて児童・生徒に話をしていただきたい。

講演を断った理由については「何を話してよいか分からなかった」「適切な資料がなかった」という意見もあるが、今後は是非、会で作成した薬剤師が話す「くすりのお話」を利用していただきたい。

3、薬剤師が話す「くすりのお話」について

CD-ROMがまだ手元にないとの回答が約25%であった。事務局に会員分は用意してあるのでご連絡をいただいた「今後使う予定」「内容の一部を使う予定」といった意見が大半であったが、「これでは使えない」「使いたくない」といったきびしい意見も寄せられた。内容については今後、再検討を行い、第2版、第3版といった改良版を作成し改善をしていく予定である。

会員からは“「くすりのお話」CD-ROMを使った実際に行うための研修会の実施”や“「くすりの話」実際に使われたところの子供たちの反応が知りたい”といった意見も寄せられた。研修会の実施や集められた報告をどのようなかたちで発表するかについては現在検討中である。

4、学校環境衛生検査について

新しく追加された「ダニアレルゲン」「二酸化窒素」「等価騒音計による騒音検査」の実施率は高いとはいえない。特に騒音に関しては三河地区では80%以上が検査自体が未実施であった。早急に等価騒音計を配置していただき、検査を実施していただきたい。

ダニアレルゲンに関してはもっとも増加すると言われている6月、7月に実施することが望ましい。

インターネットによる回答の提出は10%以下とまだまだ低いものであった。しかしながらインターネットを介して回答を提出いただければ、集計はほぼ自動的に行われるため、非常に業務の効率化が図られる。今後はますます積極的に県学薬のホームページの活用を行っていく予定である。

寺島 健二、山口 一丸、澤井 恒伸、夏目 章子、杉本 匡、稲熊 直樹、加藤 肇